

施策No.	12	施策名	地域で進める交通安全
主管課名	総務課	主管課長名	木暮 勤
関係課名	地域整備課(管理建設G)		

施策の目的 【対象】	①町民(外国人含) ②来訪者(日帰り+宿泊)	対象指標名	単位	18年度 実績	19年度 実績	20年度 実績	21年度 実績	22年度 見込み	23年度 見込み
		①人口(外国人含)	人	24,250	23,809	23,305	22,924	22,591	
②来訪者数	人	3,850,066	3,689,183	3,713,752	3,600,664				

施策の目的 【意図】	交通事故の発生を防止・抑制する。	成果指標名	単位	18年度 実績	19年度 実績	20年度 実績	21年度 実績	22年度 目標	23年度 目標
		①町内の年間交通事故発生件数	件	126	117	124	90		
②町内の交通事故死傷者数	人	172	164	186	124				

成果指標の把握方法と算定式等	①②沼田警察署から資料提供								

成果指標設定の考え方	①②意図に対する直接的な指標。
------------	-----------------

施策成果向上にむけた住民と行政との役割分担	<p>1) 住民の役割 (住民が自助でやるべきこと、地域やコミュニティが共助でやるべきこと、行政と協働でやるべきこと)</p> <p>①交通安全意識を高め、交通事故をおこさないようにする。 ②交通ルールを遵守する。(歩行者、運転者ともに)</p> <p>2) 行政の役割 (町がやるべきこと、都道府県がやるべきこと、国がやるべきこと)</p> <p><町> ①関係機関と連携し、交通安全施設(カーブミラー、ガードレール等)の整備を推進する。 ②交通事故の防止を図るため、交通安全運動(四季で実施)や交通安全教育(幼保・小中)を推進する。 ③交通安全広報活動等を実施する。</p> <p><県・国> ①交通事故防止の主体的な役割</p>
-----------------------	---

21年度の 評価結果	1. 施策の成果水準とその背景・要因 1) 現状の成果水準と時系列比較（現状の水準は？以前からみて成果は向上したのか、低下したのか、その要因は？） ① 町内の年間交通事故発生件数は、H18年度126、H19年度117、H20年度124、H21年度90と、H20年度から減少している。その要因は県の交通安全施策が強化されたことと、本町においても交通安全運動に力を入れるなどその効果があったと思われる。 ② 町内の交通事故死傷者数はH18年度172、H19年度164、H20年度186、H21年度124となっており、①と同様の傾向を示している。事故発生件数の多い危険箇所信号機がついたことも要因と考えられる。 ③ 交通事故をおこしている人は、来町者が多いと思われる。21年中における第一当事者の事故件数は114件であり、事故地は町内が48件、町外が66件であった。 2) 他団体との比較（近隣市町、県・国の平均と比べて成果水準は高いのか低いのか、その背景・要因は？） ① 利根沼田地区交通事故発生件数は、H20年度で、沼田市337件、片品34件、川場19件、昭和34件、みなかみ124件となっている。町村で比較すると高い割合を示している。要因としては、国道17号、関越道の重要路線をかかえており、道路を利用する町外の人による交通事故が多い。特に冬期間はスキー観光で雪道に不慣れな来訪者が多く訪れるため事故発生件数は増加する。 3) 住民の期待水準との比較（住民の期待よりも高い水準なのか、同程度なのか、低いのか、その他の特徴は？） ① 交通事故をなくすという期待があるがH21年度は90件の事故が発生した。 ② 危険箇所対策を期待されており、従前からガードレールを設置するなどの事業を実施している。 ③ 融雪施設の設置を期待されているが、工事費及び維持管理に莫大なコストがかかることから設置割合は低い。
	2. 施策の成果実績に対してのこれまでの主な取り組み(事務事業)の総括 1) 交通指導隊員には各交通安全運動・交通安全教室等に協力してもらっており、警察、交通安全協会、交通婦人部と連携して交通事故防止に寄与している。 2) 交通安全対策施設整備事業として、交安交付金(国費)により、カーブミラー、ガードレール等の整備をした。 3) 子どもが交通事故にあわないように、交通安全教室を各幼保・小中学校で実施した。 4) 交通安全だよりを各行政区へ毎月配布し、地域における交通安全啓発した。
	3. 施策の課題認識と改革改善の方向 1) 交通安全に係る啓発を行い、交通事故防止意識の向上を図る。(例:運転者が危険箇所通過に際し共通認識をもつ等) 2) 高齢者の増加に伴い、交通事故の発生件数の増加が懸念される。(運転・歩行両方とも) 3) 融雪施設の設置により交通事故の防止を強化したいが財政的な問題が残る。 4) 来訪者の交通事故対策に関する啓発を行う。(交通マナー、雪に対する備え)